

News Letter Vol,5

2017年11月

看護ケア推進委員会では、活動の一環として
 昨年の『口腔ケア』研修実施開催について、
 第48回日本看護学会-看護教育-学術集会で
 里内認定看護師が代表で発表してきました。

発表を聞いた人から
 うちでも同じような取り組みをしたい！
 という意見が多数ありました。

平成29年度も
 『口腔ケア』研修開催
 しました

スペシャリストが協働で行った 口腔ケアの質向上への取り組み

大和高田市立病院
 里内正樹 堀井さゆり 一林三保子 堀尾美砂 吉見薫 吉川由紀
 松井文子 田中早苗

はじめに

A病院には認定看護師や様々な専門領域の資格を持つ者(以後、スペシャリスト)で構成された「看護ケア推進委員会」が2015年に発足された。スペシャリスト達が日常活動中、病棟スタッフからのコンサルテーションを通して、患者の口腔内環境が様々であることに気付いた。A病院には歯科医師や歯科衛生士、摂食・嚥下障害看護認定看護師が在職していない。そのため、今回、看護ケア推進委員会のスペシャリスト達を中心として、口腔ケアの質の向上を目指し、研修会を実施した。

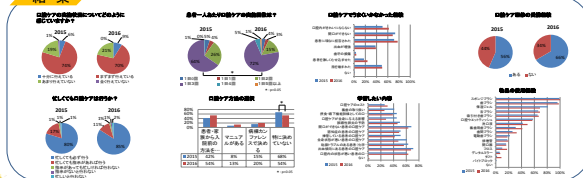
目的

スペシャリスト達が各々の専門領域の知識と技術を活かし、研修会を開催し、病棟間、スタッフ間での実施状況の差を無くし、口腔ケアの質の向上を目指す。

倫理的配慮

アンケートは個人が特定できないように実施し、参加の有無に関わらず不利益を生じないことを明記した。また、アンケート結果を学会等で発表することを文書で明記し、回答を持って同意とした。また、アンケートは院内の倫理委員会の承認を得て実施した。

結果



考察

「口腔ケア回数の上昇」や「忙しくても必ず口腔ケアを行う」と答えたものが病棟単位で多かったのは、受講対象の選定が正しく行えたと考えられる。また、スペシャリストが様々な視点から口腔ケアを述べることにより、受講者の理解や取り組みにつながったと考えられる。「口腔内がきれいにならない」という回答が増えたのは、今まで業務の一環として病棟で行ってきた「口腔ケア」に理想や問題意識が生じたからだと考えられる。

結論

1. 専門領域のスタッフがいないでも様々な領域から多角的視点で研修を行うことで、有効な研修会を実施できる
 2. 事前にアンケートを実施、ニーズ・状況を把握することで、現場に直結した研修会で実施できた
 3. 研修講師を院内にいるため継続的にフォローすることができた

本演題に関連して、開示すべき利益相反関係にある企業等はない

研修会開催報告

開催日：2017年8月19日(土) 8:30~17:15
 場所：放射線治療棟 大会議室 中央点滴室(演習)
 対象：新人看護職員 実地指導者 21名

《プログラム》

- 基礎&ポジショニング編
 (皮膚・排泄ケア認定看護師 堀井 さゆり)
- アセスメント編(感染管理認定看護師 里内 正樹)
- 認知症ケア編(認知症看護認定看護師 吉見 薫)
- 気管挿管編①(集中ケア認定看護師 遊免 大輔)
- 気管挿管編②
 (特定看護師 手術関連専門臨床工学技士 浅田 淳)
- がん化学療法編
 がん化学療法に伴う口内炎-予防を重視した副作用管理-
 (がん化学療法看護認定看護師 一林 三保子)
 予防と対症療法編-経口摂取可能な状態を維持するために-
 (がん化学療法看護認定看護師 米倉 恵子)
- 緩和ケア編 倫理も考えて
 (緩和ケア認定看護師 堀尾 美砂)
- リラクゼーション(リンパ浮腫指導技能士 松井 文子)
- 演習(堀尾 美砂、堀井 さゆり)
- グループワーク(WOCナース 吉川 由紀)
- 医科歯科連携の現状報告
 (地域医療連携センター副センター長 専任看護師長 巽 美澄子)

～受講生より～

- 患者さんの生活背景や「いつもの状態」を知ることは大切だと言うことを再確認できた。
- アセスメントツールで患者さんの口腔内の状態を評価することが学べた。
- 寝たきりの患者さんだけでなく、自立された患者さんへの口腔ケアの指導の大切さを学べた。
- 実際に介助で歯磨きや口腔ケアを経験できたことで、力の入れ具合など配慮する視点を学べた。

～講師より～

講義内容がぎっしりで、受講生の負担は大きかったのではないのでしょうか。講師陣も、クタクタでした。それでも受講生の積極的に演習に取り組む様子や、症例に真剣に向かう姿に心打たれました。

研修から3ヶ月が経過し、受講した皆さんは、研修での学びを活かして、各々の部署で口腔ケアの質の向上を目標に取り組んでいます。

取り組みの成果は、2018年2月24日に発表していただきます。